

平成 12 年度通常総会議案について

平成 12 年度通常総会は去る 4 月 21 日に開催され、以下の総会議案がすべて原案通り承認されましたのでお知らせします。

平成 11 年度事業報告 (第 1 号議案)

I. 事業の概要

1. 研究発表会

(1) 3 月 23 日, 24 日の両日, 大阪国際大学において, 第 85 回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「OR のグローカリズム」

・特別講演 (一般公開)

1) シームレスオフィス環境における創造的生産管理
伊藤利朗 (三菱電機(株) 顧問)

2) 複雑系と社会システム
吉田和男 (京都大学 教授)

3) Fair Division: A Challenge for OR
Milan Vlach (北陸先端科学技術大学院大学 教授)

- ・発表件数 113 件
- 一般発表 113 件 (うち部会報告 3 件)
- ・企業事例報告 (企業事例交流会) 6 件
- ・参加者数 313 名

また, 25 日には阪急梅田 TTC (Total Traffic Control) System および宝塚歌劇の防災施設・空調設備の制御装置を見学した。

(2) 9 月 20 日, 21 日の両日, 成蹊大学において, 第 86 回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「OR の限界への挑戦—新しい応用分野の開拓—」

・特別講演 (一般公開)

1) 日本経済の再生と OR
水野幸男 (日本 OR 学会会長・日本電気(株)顧問)

2) 科学変動期の国際政治における日本の役割
宇野重昭 (成蹊大学専務理事・前学長)

- ・発表件数 121 件
- 一般発表 109 件
- APORS セッション 9 件
- ペーパーフェア 3 件 (うち部会報告 3 件)

・企業事例報告 (企業事例交流会) 6 件

・参加者数 343 名
また, 22 日にはセコム SC センター (研究開発 & 研究所) を見学した。

2. シンポジウム

(1) 3 月 22 日, 大阪国際大学において, 第 41 回シンポジウム「確率モデルのフロンティア」を開催した。講演 4 件。参加者は 29 名であった。

(2) 9 月 19 日, 成蹊大学において, 第 42 回シンポジウム「サービスシステムのスケジューリング」を開催した。講演 5 件, パネルディスカッション 1 件。参加者は 40 名であった

3. 研究部会・研究グループ

研究部会・研究グループ終了/中間報告

- ◎印 終了を示す
- *印 研究グループを示す
- ☆印 常設部会を示す

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
☆待ち行列	宮沢 政清 (東京理科大学) 牧本 直樹 (筑波大学)	20 名	8 回	本研究部会では, 待ち行列システムを中心とする確率モデルの理論解析や, その情報通信システム性能評価への応用等に関する最新のトピックを専門家に講演してもらい(各回 2 件), それらに関する議論・意見交換を行っている。
☆OR/MS とシステムズ・マネジメント	住田 友文 (電気通信大学) 林田 収二 (古河電気工業)	20 名	5 回	当研究部会は, システム(特に経営組織)のマネジメントを効果的に達成するため, その構造・機能に大きな影響を及ぼす情報システムのあり方や活用方法について研究することを目的に運営した。また, IFORS '99 において, H. Muller-Merbach がオーガナイズするセッションでコア・メンバーが関連研究を発表した。
☆数理計画 (RAMP)	小島 政和 (東京工業大学) 宇野 毅明 (東京工業大学)	100 名	1 回	第 11 回 RAMP シンポジウムを平成 11 年 10 月 18・19 日に九州大学で開催し(参加者約 100 名), 4 セッション(合計 15 講演)を通して, 数理計画の理論, 計算手法, 応用に関する情報交換・交流を行った。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
◎システムの最適化とOR	久志本 茂 (福井工業大学) 前田 隆 (金沢大学)	18名	6回	経済・経営システム、情報・通信システムなど、様々な分野におけるシステムのモデリングの方法やシステムの最適化に関する数理論的研究とその応用について、自然科学や社会科学など幅広い分野の方々に報告して頂き議論・意見の交換を行った。また、北陸を中心としたOR関係者の研究交流の場としても一定の効果を上げることができた。
◎モデルと最適化	森田 浩 (神戸大学) 伊藤 健 (流通科学大学)	16名	5回	モデル化と最適化ということでメンバーの他にOR学会員以外の講師も招いて周辺領域を含めた幅広い研究や情報交換を行った。他の学協会との共催も行い、そこで行われている研究との関連やつながりを探るとともに、OR学会の活動を広報することができた。
インフラストラクチャー問題	柳井 浩 (慶応義塾大学) 栗田 治 (慶応義塾大学)	17名	11回	インフラストラクチャーに関わる諸問題の情報収集・整理ならびにORモデルの開発を行っている。特に①水資源問題、②広域交通網の評価、③インフラ計画の収支といった具体的テーマに関して研究成果を上げつつある。
経営戦略	梅沢 豊 (東京大学) 中野 一夫 (構造計画研究所)	21名	9回	統合オペレーションの戦略、マネジメントレベルの諸問題につき、理論的分析を行う一方で、現代企業戦略の最先端事例を研究する。
COM・SCM・スケジューリング	由良 憲二 (電気通信大学) 今泉 淳 (東洋大学)	16名	8回	全体最適化のためのサプライチェーン・マネジメントについて、理論と実務の両面における現状と問題点を明らかにし、必要とされる技術的發展の方向性と実践上の課題を議論した。合計9回の会合を持ち、企業から多くの参加があった。
地域産業戦略	大内 東 (北海道大学) 山本 雅人 (北海道大学)	7名	3回	地域産業振興のために情報産業が重要であると思われるが、実際の産業に対する情報技術の貢献度を理論化、数値化することは困難であるという結論に達した。今後は、既存事業の内容を調査し、企業活動規模の拡大に向けて、どのような戦略的情報技術が適用可能かを示す。
最適化とアルゴリズム	田村 明久 (京都大学) 塩浦 昭義 (上智大学)	20名	10回	最適化またはアルゴリズムに関連する分野の研究推進と情報交換を目的とし、年に10回程度(1回あたり2名講演)研究会を開催します。分野については限定せず関連分野からの参加/講演を歓迎します。
システム最適化の理論と応用	時永 祥三 (九州大学) 古川 哲也 (九州大学)	30名	6回	システム最適化の理論と応用に関して、社会科学、自然科学の様々な分野の研究者により研究発表をしてもらい、その一部はオペレーションズ・リサーチ学会の雑誌や大学の紀要に掲載された。発表者は九州支部会員が中心であるが、参加者同士の交流の場ともなっており、会員の拡大にも貢献している。
マーケティング・エンジニアリング	岡太 彬訓 (立教大学) 中川慶一郎 (NTT データ)	40名	9回	当部会では「金融データベース・マーケティング」をテーマに、実務に携わる方の講演とデータ解析コンペティションを行った。コンペでは産学合わせて10チームが参加し、共通のデータをもとにその分析方法を競った。
◎*都市のOR	腰塚 武志 (筑波大学) 大澤 義明 (筑波大学)	15名	5回	OR手法に精通する理論研究者と都市計画を専門とする実践研究者との交流の場を提供する。講師による研究発表さらにその後の会合等を通して、環境問題、交通問題、施設配置、経済活動等について研究を深める。
◎*ORリテラシー	真鍋龍太郎 (文教大学) 高井 英造 (静岡大学)	10名	6回	ORリテラシー普及の策として大学生向け教科書の暫定版を昨年3月に作った。これを実際に教室で用いた上で再検討して本年春に「問題解決のためのオペレーションズ-Excelの活用と実務的例題」(日本評論社)として出版する。
◎*評価のOR	上田 徹 (成蹊大学) 篠原 正明 (日本大学)	15名	7回	「DEA」と「AHP」の研究を行った。DEAの研究では、規模の収縮に対する重み制約の影響、DEA 算法による統計学的距離、首都機能移転候補地選定への応用、確率的DEAなどの発表があった。AHPの研究では、グループAHPを用いた合意形成モデル、エントロピー法によるウェイト推定などの発表があった。
◎*21世紀における交通・流通システム	八戸 英夫 (工学院大学) 平井 力 (鉄道総合技術研究所)	17名	11回	21世紀における高度情報化社会の実現に欠かせない存在として着目されているITSとサプライチェーン・マネジメントに代表されるような交通・流通システムに関する話題を中心に月1回の定例会で研究を行った。
*マネジメント・インフォメーション・フォーラム静岡	徳山 博子 (静岡大学) 八巻 直一 (静岡大学)	56名	4回	4回の研究会を開催し、講演と討論を行った。いずれの会も20名前後の参加者(さらに7,8名の学生参加者)を得て、盛況であった。これらの成果は、平成11年度秋の学会発表会にて報告した。
*環境政策	永井 達也 (大成プレハブ) 小池 清 (キックス総研)	13名	5回	昨年は企業の環境情報公開、炭酸ガス排出抑制策に焦点をあててみた。情報公開では環境会計を、排出抑制では燃料電池、風力発電、コージェネを取り上げそれぞれの専門家を招いて話を聞き、討論を行った。本年は更に、化学物質関連等もテーマにしたい。
*ファジィ動的計画法	安田 正實 (千葉大学) 正道寺 勉 (日本工業大学)	9名	5回	動的計画法研究グループから発展して、予測理論、環境システム、ソフト・コンピューティング等を含む広い研究分野の範囲におよんで、意見交流を行った。7 th Bellman Continuumにも当部会メンバーが多数参加した。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
*グローバル政策	齋藤 司郎 (防衛庁) 鈴木 悦郎 (シスアップ)	24名	10回	8回の定例研究会と1泊2日の合宿研究会を実施して計18件の事例研究を中心とした発表討議を積み重ね、より総合的な観点或いはグローバルな視点から、問題解決のための要因の解明やモデル化を幅広く探求した。
*情報流通とオープンネットワーク	高橋 浩 (富士通) 松井 啓之 (愛知学院大学)	9名	5回	インターネット及び携帯電話などのモバイル機器などが急速に普及していることを踏まえ、これらに関連するハードウェア、ソフトウェア、コンテンツ・サービスに着目し、専門家も招いての講演と質疑応答を交えた研究会を開催した。

4. 普及活動

(1) 定例講演会

開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数	開催地区
11年5月	電子メディアの著作権保護と電子透かし技術	宮崎 明雄	15名	九州

(2) ORセミナー

「実用ORセミナー」を11月15・16・25・26日、(株)構造計画研究所で、40周年記念事業と共同で開催した。参加者28名で、参加者アンケートでも好評を頂いた。

<開催趣旨>

「ORって何?」、「ORなんて役立たない」「ORは難しくて」などと思っているビジネスマンを対象に、ORのエッセンスと代表的な技法をコンパクトかつ平易にまとめた4日間の入門セミナーです。同僚とは一味違った高い視点から最適な意思決定を行える能力を身につける。

前半2日間は、表計算ソフトを利用した分析技法「テクノOR」を学びます。後半2日間は、モデルケースの分析を通して、代替案を作成し、フィジビリティや採算性を定量的に評価し、最適な経営意思決定を行う考え方を学びます。

<プログラム>

11月15日 EXCELの基本操作と線形計画法
八巻直一(静岡大学)
AHP一階層化意思決定法
八巻直一(静岡大学)

16日 コンジョイント分析
高森 寛(青山学院大学)
DEA一包括分析法
刀根 薫(政策研究大学院大学)

25日 MBPの考え方 鈴木久敏(筑波大学)
分析ケースの提示 猿渡康文(筑波大学)
シミュレーション
逆瀬川浩孝(早稲田大学)

11月26日 グループ討論と中間発表
要点の整理と考え方のヒント
鈴木久敏(筑波大学)

グループ討論
分析結果発表と講評
実用ORの意義
水野幸男(OR学会会長)

(3) OR企業フォーラム

今年度は「ネットワーク環境下のグローバルビジネ

ス」を統一テーマとして、各界の第一線でご活躍のゲストのお話を中心に、この話題について検討し、あわせて参加者相互の交流を深めることによって、大きな成果を収めた(参加者延133人)。

開催年月日	テーマとゲストスピーカー	参加者
11. 9.30	グローバル化の加速と日本-アジアとの共生の途 ○(株)三菱総合研究所 代表取締役副社長 團野廣一	30人
11.11.11	高度情報社会と企業経営 ーグローバル・ネットワーク 社会の急速な発展の中でー ○三井物産(株) 代表取締役専務取締役 情報戦略統括役員 島田精一	46人
12. 1.24	産学連携ベンチャーの起業 :その背景と現実 ○大阪大学大学院工学研究科 教授 白川 功 ブライダル企業のグローバル戦略 ○ワタベウエディング(株) 代表取締役社長 渡部隆夫	57人

(4) 丸の内OR研究会

平成4年10月発足以来、OR学会の研究普及活動の一環として、年10回例会を開催、広義かつ先進的な話題提供と会員相互の啓発を行っている。会場変更、例会のスタイル改良等の努力を続けているが、参加者不足から財政逼迫し、学会から財政支援を実施した。なお、研究会の開催要旨は適宜OR誌に掲載している。

(5) 新宿OR研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催している。テーマはOR関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メ

ンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。

5. 刊行物

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 44 No. 3からVol. 45 No. 2まで12号（本文681ページ）を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、論文・事例研究、論文・研究レポート、講座、学生論文賞受賞論文要約、情報の窓、研究部会報告等を掲載した。
- (2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 42 No. 1からVol. 42 No. 4まで(518ページ)を発行した。本年度の投稿論文は107編（再投稿60編を含む）で、掲載論文は34編であった。今年度から海外頒布はElsevier Science Ltd.と独占契約を結び、海外販売を委託している。
- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集
春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。

6. 40周年記念事業

創立40周年記念事業企画推進委員会会議は、全て電子メールを通じて開催され、幹事会も2回開催されたのみで、主としては電子メールによったほか、各事業計画の進捗状況は、ホームページにより各委員に伝達された。以下に平成11年度事業計画の実施状況について報告する。

- (1) 国際交流（詳細、ホームページ記載）
 - ①第3回若手研究者の海外渡航援助
18名 合計 3,130,000円
 - ②海外若手研究者の招待 7名 合計 1,579,778円
 - ③IFORS '99北京大会への途上国からの発表のための渡航費援助2,000,000円の拠出をした。
- (2) 専門書シリーズの出版（詳細、ホームページ記載）
「経営科学のニューフロンティア」と題するシリーズ15冊を朝倉書店から刊行することとし、執筆継続中。刊行は来年度内と見込まれている。
- (3) 「新編OR事典」の編集（詳細、ホームページ記載）
学会の編集委員会（水野幸男委員長）の下編集活動を活発に行い、その結果編集作業の大半を了し、年度内の刊行は難しかったが本年4月～5月までには、CD-ROM「OR事典2000」及び「OR用語辞典」（日科技連出版社）として刊行の予定。
- (4) 教材・テキスト等の開発助成（詳細、ホームページ記載）
主として著作権等についての議論をつめた後、本年7月を目途に完成に努めている。

- (5) 学会ホームページと通信等設備の整備（詳細、ホームページ記載）

既に通信基盤設備の学会事務局への設置は了し、また、記念事業及び学会活動を広報するホームページも開設され、今年度はその充実・整備が図られ、数多くの方々がアクセスされた。

- (6) 特別研究助成（詳細、ホームページ記載）

国際会議・シンポジウム開催等も含めた研究プロジェクトを広く会員から公募し、以下7件のテーマに対する助成を決定。うち「OR入門セミナー」は、11月既に開催を了し、その他についても研究継続中、或いは開催準備中で、大半は2000年度中に、また、一部は場合によっては2001年度にわたるものと思われる。

- ① International Conference on Applied Stochastic System Modeling の開催
- ② 農業における諸問題解決のためのORによる基礎的研究
- ③ サプライチェーンシステムの評価システムの構築およびその最適化に関する研究
- ④ 情報ネットワーク時代の開発・調達・製造・流通・販売・回収の統合オペレーション・マネジメントに関する理論的・実証的研究
- ⑤ OR入門セミナーの開催
- ⑥ 情報通信ネットワークの新しい性能評価法に関する総合的研究
- ⑦ ネットワーク構造を有するライフラインシステムの危機対応管理体制に関する研究

7. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議関連

第17期においては、経営工学研究連絡委員会と人工物設計・生産研究連絡委員会経営管理工学専門委員会の構成学会として、前者には委員として今野浩氏（東京工業大学）、後者には委員長として高橋幸雄氏（東京工業大学）をそれぞれ派遣している。両委員会は7月にシンポジウム「エンジニア資格制度と経営工学」を開催すると共に、委員会で議論を重ね、第17期における研究成果を報告書「経営工学からみたエンジニア資格と教育認定制度」としてとりまとめている。

- (2) 経営工学関連学会協議会（FMES）関連

経営工学関連7学会で構成している当協議会は、現在は主として前記学術会議の委員会が主催するシンポジウムの開催支援を中心としている。当学会からはシンポジウム実行委員会に2名を派遣し、7月1日に開催された第15回シンポジウム「エンジニア資格制度と経営工学」に協力した。

(3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

この機構は、大学のエンジニア教育プログラムを評価・認定する任意団体として、1999年11月に発足した。当学会は、前記の報告書にも記述されているが、関連7学会と共同歩調を原則とし、委員2名を派遣し、参加方式を含めて今後の対応を協議しつつある。

(4) (株)日本工学会関連

工学系94学協会の連合体である(株)日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員1名を派遣した。

8. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「インフラストラクチャー問題」研究部会を窓口を実施した。

9. 国際協力

(1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies)

1999年8月16日~20日第15回大会が北京において開催され、会長以下100名程度の参加により、各国OR学会との交流、協力を図った。なお、40周年記念事業の一環として北京実行委員会に発展途上国招請基金として2百万円が寄贈された。

(2) APORS (Association of Asian-Pacific Opera-

tional Research Societies)

大山達雄氏 (政策研究大学院大学) が事務局長として、アジア・太平洋地域のOR学会の発展と加盟学会の情報交換に協力している。

(3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORのVol.50 No.1~No.6の国内頒布に協力した。

(4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。

(5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

10. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・1999年度経営情報学会シンポジウム (経営情報学会)
- ・第49回システム制御情報講習会 (システム情報学会)
- ・第39回人工知能セミナー (人工知能学会)
- ・スケジューリングシンポジウム'99 (スケジューリング学会)
- ・第9回科学技術振興、推進に関するシンポジウム (日本工学会)
- ・経営工学シンポジウム—50周年に向けて— (日本経営工学会)
- (他略)

11. 支部活動

各支部ごとに次のとおり活動した。

支部活動報告

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 2回 幹事会 7回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会・ 幹事会 1回
研究会	研究会 1回		研究会 5回 研究発表会 1回	研究会 31回	研究会 2回	研究会 3回
講演会		講演会 1回		講演会 4回	講演会 2回	講演会 1回
講習会			講習会 1回			
出版			支部ニュース5回 アブストラクト集 1回			
その他	他学会後援シンポジウム 1回 オーストラリア クィーンズランド 支部との合同ワーク ショップ 1回		三学会共催研究発表会 1回 見学会 1回	OR企業フォーラム 1回	共催研究会 1回 共催講演会 1回	

12. 表彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第28回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

・ A Logical Interpretation for the Eigenvalue Method in AHP

Journal of the Operations Research Society of Japan Vol. 42, No. 2

関谷和之 (静岡大学)

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第25回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

イ. 海辺不二雄 (コンサルタント)

ロ. 小笠原 暁 (ロゴヴィスタ株)

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

第24回実施賞の選考を行い、下記のとおりに決定した。

株式会社 数理システム 代表取締役 山下 浩

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

第20回事例研究奨励賞の選考および第15回事例研究奨励賞ソフトウェア部門の選考を行い、以下のとおり決定した。

第20回事例研究奨励賞

・ 固定資産宅地評価へのファジィ数量化理論の適用

オペレーションズ・リサーチ Vol. 44, No. 6

畠中政国 (中央鑑定所), 藤江寿紀, 土肥 正, 尾崎俊治 (広島大学)

第15回事例研究奨励賞ソフトウェア部門

・ トラヒック評価・設計支援システム: TEDAS

吉野秀明, 山本尚生 (NTT情報流通基盤総合研究所)

(5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞

第1回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

伏見正則 (南山大学)

(6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第17回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定し、授賞を行った。

・ 数理計画モデルの適用による都市交通管理政策の評価に関する研究

児玉裕一郎 (埼玉大学・修士論文)

・ 駅構内入れ換え計画問題に関する研究

坂口 隆 (電気通信大学・修士論文)

・ Branch-and-cut algorithms for bilinear matrix inequality problems

福田光浩 (東京工業大学・修士論文)

・ 時間枠制約付き配送計画問題に対する局所探索法の適用について

増田友泰 (京都大学・学士論文)

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事 非常勤

定数: 12人から16人 (現在: 16人)

任期: 2年

監事 非常勤

定数: 2人 (現在: 2人)

任期: 2年

2. 職員に関する事項 (略)

3. 会議に関する事項

(1) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
11.4.22	1. 平成10年度事業報告の件	承認
	2. 平成10年度収支計算報告および監査報告の件	〃
	3. 平成11年度事業計画の件	〃
	4. 平成11年度予算の件	〃
	5. 平成11年度12年度役員選任の件	〃
	6. 名誉会員推薦の件	〃
	7. 定款改正の件	〃
	8. 学会賞の発表と表彰・新フェローの紹介	

(2) 理事会 (略)

(3) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結果
12.4.7	1. 平成11年度事業報告の件	承認
	2. 平成11年度収支計算報告および監査報告の件	〃
	3. 平成12年度事業計画の件	〃
	4. 平成12年度予算の件	〃
	5. 平成12年度13年度役員選任の件	〃
	6. 平成12年度13年度評議員選任の件	〃

(4) 支部長会議 (略)

(5) 委員会・幹事会

・ 常設委員会

OR誌編集委員会 9回 国際委員会 1回

研究普及委員会 8回 表彰委員会 5回

JORSJ編集委員会 3回 IAOR委員会 4回

・ その他の委員会・幹事会

庶務幹事会 8回 フェロー会議 1回

会長副会長会議 2回 研究部会主査会議 1回

OR企業フォーラム企画委員会 1回

情報化委員会 4回

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

定款の一部変更 文部省認可 (平成11年6月30日)

主たる改正点は、1. 定款の中にあった会費の規定を細則に移した上で、正会員の入会金を1,500円 (旧1,200円)、年会費を14,400円 (旧12,000円) とする。2. 総会

の成立要件を会員現在数の3分の1以上の出席を、過半数以上の出席に改めるの2点。

なお、細則には永年会員の規定が新設された。

「正会員のうち、30年以上正会員を継続し、70歳以上である者は申出に基づき、理事会の承認により会費を半額とすることができる」。

5. 契約に関する事項

JORSJのVol.43からの海外頒布について、Elsevier

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計	
				A種	B種		
平成11年2月末日	14	2,584	339	106(131)	29(29)	3,072	
平成11年度	入会	60	79	4(4)	1(1)	144	
	移動	学→正	55	△55			
		正→学	△2	2			
		正→名	1	△1			
	退会	1	135	16	15(16)	4(4)	171
	除名		69	56		2(2)	127
	復活		3	1		1(1)	5
純増減		△89	△45	△11(△12)	△4(△4)	△149	
平成12年2月末日	14	2,495	294	95(119)	25(25)	2,923	

()は口数

Sciennce Ltd.と販売契約。

6. 寄付金に関する事項

秋季研究発表会開催に際して、成蹊学園から30万円助成金の交付を受けた。

7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本部	11	1,451	190	60(81)	18(18)
北海道		84	9	2(2)	
東北		90	5	5(6)	1(1)
中部	1	214	24	7(7)	1(1)
関西	2	376	51	15(15)	1(1)
中国・四国		141	6	3(5)	3(3)
九州		139	9	3(3)	1(1)
合計	14	2,495	294	95(119)	25(25)

()は口数

平成11年度収支計算書 (第2号議案)

収支計算総括表

平成11年3月1日から平成12年2月29日まで

(単位：円)

1 収入の部			
科目	合計	一般会計	特別会計
			40周年記念事業
基本財産運用収入	10,000	10,000	0
入会金収入	71,400	71,400	0
会費収入	51,645,800	45,450,800	6,195,000
事業収入	15,579,312	15,579,312	0
その他収入	54,580,764	10,262,745	44,318,019
当期収入合計	121,887,276	71,374,257	50,513,019
前期繰越収支差額	17,004,035	17,004,035	0
収入合計	138,891,311	88,378,292	50,513,019
2 支出の部			
科目	合計	一般会計	特別会計
			40周年記念事業
管理費	27,341,975	27,081,504	260,471
事業費	93,723,109	43,470,561	50,252,548
当期支出合計	121,065,084	70,552,065	50,513,019
当期収支差額	822,192	822,192	0
次期繰越収支差額	17,826,227	17,826,227	0
支出合計	138,891,311	88,378,292	50,513,019

平成 12 年度事業計画 (第 3 号議案)

今年は例年と異なり、世界の多くの人が、同じテーマに注意を向け、それぞれの立場で関わりをもち、克服した画期的な年である。昨年春以降、マスコミで Y2K 問題が様々な取り上げられかたをした。中には正しい認識に基づかずドタバタ劇もあったようだが、事前にリスクを正しく認識し対応すれば、大事にいたら無いことを多くの人が経験したわけである。多くの費用や工数が投入されたわけであるが、保険やリスク管理の意識の低いと思われた日本において、アメリカのような裁判沙汰が起こらなかったのは 21 世紀への新しい序章として良しとすべきである。

また、IT 革命に支えられたニューエコノミーへの対応が日本の次の克服すべき課題であるという合意形成がされつつある。OR 学会としても、この方向での旗振り役を任じるという使命感と自覚を持つことが重要と考える。

アメリカに遅れをとった金融工学の分野の育成に努めると共に、日本人の天職である製造業においても、OR 学会は正会員、賛助会員、社会に対し、思いを新たに貢献する必要がある。そのため、OR セミナー、企業事例交流会と OR 企業フォーラム、シンポジウム等のあり方を今一度見直し、新しい時代の指導的立場に立てるよう、学会の総力をあげて取り組むようにしたいと考えている。

平成 12 年度における事業計画の概要は以下の通りである。

1. 研究発表会

研究発表会を春秋 2 回開催する。

(1) 春季研究発表会

期 日：3 月 27 日、28 日

場 所：名古屋工業大学 (愛知県名古屋市)

特別テーマ：OR と環境

見学会：3 月 29 日 (日本ガイシ小牧工場、ヤマザキマザック本社工場)

(2) 秋季研究発表会

期 日：9 月 27 日、28 日

場 所：東京工業大学 (東京都目黒区)

特別テーマ：21 世紀の OR

2. シンポジウム

シンポジウムは定例的に年 2 回開催する。

(1) 第 43 回シンポジウム

期 日：3 月 26 日

場 所：愛知大学 (愛知県名古屋市)

テーマ：ゲームの理論とオペレーションズリサーチ

(2) 第 44 回シンポジウム

期 日：9 月 26 日

場 所：東京工業大学 (東京都目黒区)

テーマ：OR と金融工学

3. 研究部会・研究グループ

(1) 研究部会

次の 16 研究部会を設置し、年度途中で地方、若手交流、緊急性が高いものなどについては予算限度内において追加発足を認める。

ア. 常設 (3 研究部会)

「待ち行列」 主査：逆瀬川浩孝 (早稲田大学)
「OR/MS とシステム・マネジメント」

主査：住田友文 (電気通信大学)

「数理計画 (RAMP)」 主査：小島政和 (東京工業大学)
イ. 継続 (7 研究部会)

「COM・SCM スケジューリング」

主査：由良憲二 (電気通信大学)

「地域産業戦略」 主査：大内 東 (北海道大学)

「インフラストラクチャー問題」

主査：柳井 浩 (慶応義塾大学)

「経営戦略」

主査：梅沢 豊 (東京大学)

「システム最適化の理論と応用」

主査：時永祥三 (九州大学)

「最適化とアルゴリズム」 主査：田村明久 (京都大学)

「マーケティング・エンジニアリング」

主査：岡太彬訓 (立教大学)

ウ. 新設 (6 研究部会)

「AHP の理論と実際」 主査：木下栄蔵 (名城大学)

「OR における数理システムの最適化」

主査：野田竜夫 (富山県立大学)

「環境システム」

主査：小田中敏男

「ゲーム理論とその応用」

主査：武藤滋夫 (東京工業大学)

「数理的意思決定とその応用」

主査：森田 浩 (神戸大学)

「評価の OR」

主査：山田善靖 (東京理科大学)

(2) 研究グループ

5 研究グループを設置する。年度途中で追加発足も積極的に認め、活動実績と研究成果が高いものは次年度に研究部会に昇格させる。

ア. 継続 (5 研究グループ)

「マネージメントインフォメーションフォーラム 静岡」
主査：徳山博子 (静岡大学)

「環境政策」

主査：永井達也 (大成プレハブ(株))

「ファジィ動的計画法」

主査：安田正實 (千葉大学)

「情報流通とオープンネットワーク」

主査：高橋 浩 (富士通)

「グローバル政策」

主査：齋藤司郎 (防衛庁)

4. 普及活動、会員増強活動

本年度は、各種行事を通じ会員の増強を図るべく普及活

動に、より一層努めることとし、以下のような活動を行なうこととする。

- (1) 研究意欲の増進、最新知識情報の吸収を意図し、講演会開催の積極化を図る（支部6回）。
- (2) 学会の役割を内外にアピールするという広報活動の一環として、また事業としての位置づけに配慮したORセミナー（講習会）を3回開催する。
- (3) 賛助会員の増強を図ると共に支部活動の活性化に寄与するため、OR企業フォーラムを開催する。
- (4) 賛助会員の増強を図ると共に、企業内でのOR実施例に対する社会の認知を高めるため、企業事例交流会を開催する（年2回）。

5. 刊行物

次の刊行物を発行する。

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」(12号)
- (2) 論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(4号)
- (3) 研究発表会アブストラクト集(2回)
- (4) シンポジウム予稿集(2回)・セミナーテキスト(3回)
- (5) 研究部会活動結果の報文集等

6. 日本学術会議および他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会及び人工物設計・生産研究連絡委員会（経営管理工学専門委員会）に委員を派遣し、その活動に参画する。
- (2) 日本学術会議人工物設計・生産研究連絡委員会（経営管理工学専門委員会）が主催する第16回シンポジウムに、日本経営工学会、日本品質管理学会、日本開発工学会、日本信頼性学会、研究・技術計画学会、日本設備管理学会とともに参画・共催し、その実行委員会に委員2名を派遣する。

期 日：6月15日(木)

場 所：早稲田大学大隈小講堂

テーマ：サービス産業・公共事業と経営工学

- (3) ㈱日本工学会の活動に協力し、その他関連学協会との交流を積極的に進める。

7. 公益活動

- (1) 受託研究

官公庁、財団等の公的機関からの委託研究を積極的に受託するように努める。

- (2) 啓蒙活動

高校生・一般市民に対するORの啓蒙活動を推進する。

8. 40周年記念事業

平成11年度までに多くの事業が実施されたが、以下の事業は本年度乃至それ以降にわたり継続実施されることとなった。

継続事業計画の概要は以下の通りである。

- (1) 国際交流

平成9～11年度に引き続き、若手研究者の海外における研究発表のための渡航費の援助、海外の若手研究者を招待し日本の学会における研究発表を中心とする国際交流の支援を行う。

- (2) 専門書シリーズの出版

今年度内に刊行を予定している。

- (3) 「新編OR事典」の編集

4月までに刊行できるように編集作業を進める。なお、CD-ROM版のタイトルは「OR事典2000」に用語編冊子体の書名は「OR用語辞典」に決定した。

- (4) 教材・テキスト等の開発助成

OR教材を集めたCD-ROMを作成し、7月までに配布する。

- (5) 特別研究助成

今年度にズレ込んだ6件の特別研究事業について、引き続き研究・開催準備を行う。

- (6) ホームページの充実

学会ホームページ、特に創立40周年記念事業関連のホームページについては、今年度もその内容の充実に努める。

(7) 今後の40周年記念事業は、学会理事会の下で推進する。本事業計画・予算に従うとともにホームページ等を通じ、記念事業の広報及びその遂行に努める。

9. 国際協力・交流

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) を通じて、各国のOR学会との交流、協力を図る。

- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) を通じて、特に事務局長選出学会としてアジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会間の情報交換に積極的に協力する。7月5日～7日に開催される第5回大会（開催地シンガポール）に参加し、大会の成功に資する。

- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力する。

- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力をする。

- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力をする。

- (6) 海外からのOR関係来訪者に応接する。

10. 支部活動

各支部において、研究会、講演会、見学会等を企画し実施するほか、会員対策についても配慮する。

11. 表彰

文献賞, 実施賞, 普及賞, 業績賞, 事例研究奨励賞および学生論文賞の選考・表彰を行う。

12. その他

財政基盤の安定化に努めるとともに, 事務局のOA化に配慮する。

平成 12 年度収支予算書 (第 4 号議案)

収支予算総括表

平成 12 年 3 月 1 日から平成 13 年 2 月 28 日まで

(単位: 円)

1 収入の部			
科 目	合 計	一般会計	特別会計
			40 周年記念事業
基本財産運用収入	10,000	10,000	0
入金金収入	120,000	120,000	0
会費収入	55,205,000	49,205,000	6,000,000
事業収入	18,597,000	18,597,000	0
その他の収入	37,564,048	9,550,000	28,014,048
当期収入合計	111,496,048	77,482,000	34,014,048
前期繰越収支差額	17,826,227	17,826,227	0
収入合計	129,322,275	95,308,227	34,014,048
2 支出の部			
科 目	合 計	一般会計	特別会計
			40 周年記念事業
管理費	27,713,000	26,708,000	1,005,000
事業費	83,783,048	50,774,000	33,009,048
当期支出合計	111,496,048	77,482,000	34,014,048
当期収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	17,826,227	17,826,227	0
支出合計	129,322,275	95,308,227	34,014,048

平成 12・13 年度役員候補者名簿 (第 5 号議案)

会務役職	定数	候補者	備考(非改選役員)
会 長	1(1)	長谷川 利 治	
副 会 長	3(1)	前 田 忠 昭	森 清 堯 若 山 邦 紘
庶 務	2(1)	片 山 隆 仁	新 村 秀 一
国 際	1(0)		武 藤 滋 夫
研究普及	2(1)	川 島 幸之助	太 田 敏 澄
編 集	2(1)	小 島 政 和	田 口 東
会 計	1(1)	小 澤 正 典	
無 任 所	4(3)	鈴 木 久 敏	中 川 覃 夫
		成 久 洋 之	
		山 下 勝 比 拵	
監 事	2(1)	忍 田 和 良	眞 殿 宏

()内は平成 12 年度改選数

平成 12・13 年度評議員候補者名簿 (第 6 号議案)

	氏 名		氏 名		氏 名
1	安達公一	25	小金澤章吾	49	濱田年男
2	井垣伸子	26	腰塚武志	50	福島雅夫
3	生駒憲治	27	小島平夫	51	伏見正則
4	石井博昭	28	小谷重徳	52	前田 博
5	石川明彦	29	後藤義雄	53	松本浩樹
6	伊田嘉昌	30	古林 隆	54	松山久義
7	茨木俊秀	31	近藤次郎	55	真鍋龍太郎
8	伊理正夫	32	今野 浩	56	水野幸男
9	岩田 怜	33	佐藤富士夫	57	三根 久
10	上田 徹	34	神 正照	58	村井 勉
11	梅沢 豊	35	鈴木道夫	59	森 雅夫
12	大内 東	36	高橋幸雄	60	森口繁一
13	大野勝久	37	高見幸正	61	森戸 晋
14	大山達雄	38	竹内 啓	62	森村英典
15	岡 久雄	39	辻 紘良	63	安田一彦
16	岡本行二	40	東條徹男	64	柳井 浩
17	岡本正昭	41	刀根 薫	65	八巻直一
18	岡本吉晴	42	仲川勇二	66	山口 忠
19	尾崎俊治	43	中田友一	67	山下 浩
20	海生直人	44	中野一夫	68	山田 茂
21	唐津 一	45	中村正治	69	山田郁夫
22	河合 一	46	行方常幸	70	山田善靖
23	国澤清典	47	野村淳二		
24	久野源三	48	鳩山由紀夫		